

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

岩井さんと向坂先生

滝野 忠 … 2

岩井章氏没二〇年のお墓参り

岩井章さん没後20年のお墓参り

蓑輪 泰臣 … 3

―「弥次喜多道中」卒業―

おいおい、どこへ行くんだ

小林 久美子 … 7

戦争は二度としない

松野 菊美 … 8

岩井章著『ひとすじの道50年』

市川 友也 … 8

小さな火を全国に

山浦 隆芳 … 10

『資本論』勉強の中で

山下 俊幸 … 10

国労闘争団激励ツアー

滝野 嘉津子 … 11

競争社会でなく協力社会

佐野 周二 … 12

―「反核平和・9条改悪許さない」新得集会―

大飯原発うごかすな!

稲村 守 … 13

―10・15(日) 関電包囲全国集会―

旬刊 社会通信

NO.1248 二〇一七年九月一五日号

二〇一七年九月一五日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

岩井さんと向坂先生

岩井章氏没二〇年のお墓参り

今年（二〇一七年）は岩井章（元総評事務局長）没二十年です。調べごととしていて気づいたのですが、吉川弘文館発行『日本年表・地図』の一九九七年二月の項に「岩井章（七四、元総評事務局長）」とありました。第二次世界大戦後の労働運動に占めた総評と三十三歳から十五年の間、事務局長を担った岩井さんの歴史です。

私は岩井さんに育てられました。岩井さんが創設した社団法人国際労働運動研究協会です。事務所は東京八重洲口の国労会館にありました。浪人生活を繰り返して、社会経験ゼロの私に、岩井さんいわく「電話受けたら名前だけメモっつけ。ソレで用件はすべてわかる」。岩井さんは来る者こばまず、政治家、新聞記者、評論家、学者・文化人等日本を代表する人士で、毎日あふれておりました。用件によっては「滝野君ダイヤル回せ」とその場で電話。これで一件落着です。こうして、その日の仕事はその日に終える、先きに延ばすなと教えられたのです。

一九七〇年代はじめ、社会は燃え煮えたぎっておりました。日本では社会党が国民連合政府綱領をつくり、統一戦線政府実現への熱い議論と闘争、日本の裏側南米のチリでは一九七〇年九月社会党・共産党を中心に社会党のアジェンデを大統領とする人戦線政府がつくられておりました。陸軍総司令官のピノチェットがクーデターを起こしたのは一九七三年九月でした。アジェンデは大統領府で抵抗しましたが、軍は人戦線政府と支持者を血の海に沈めました。

反革命です。岩井さんは「アジェンデがなぜ負けたのか、今後どうなるか、日本への教訓を分析しろ」と命令です。岩井さんは、このようにつねに次のことを考え読書してらった。「滝野君、ぼくが読んでいない本、読まなきゃならん本知ってるだろう、買ってあげ」なんてことはたびたびでした。読む速度、とてつもなくはやいんです。一緒に旅するのも日常でした。一時間に二、三冊なんてことも珍しくありません。

岩井さんは常に考え、確固とした問題意識をもっていたのです。読書は学者的な読み方でなく、運動と己の問題意識をより固め、自信をもつ読み方であったのでしよう。「講演ばかりじゃ頭が枯れる。充電が必要だ」とも。私と岩井さんのお付き合いは一九七〇年から亡くなった一九九七年まで二十七年です。

私を岩井さんに紹介したのは向坂先生です。向坂先生を紹介したのが学生時代の恩師山本順一先生です。山本先生は九大で向坂先生のお弟子さん。山本先生が「滝野君、向坂塾で勉強しないか」と。一九六九年のことでした。鷺宮の向坂宅を訪ねました。広く大きな玄関には、セザンヌの絵がかけられておりました。書斎にまねかれるや、先生「あの絵は好きか」と。「ベラスケスですね」、はじめての会話です。

向坂塾への入門が許され、週一回の『宣言』、『資本論』（第一巻を繰り返しておこなう）に臨むことになりました。先生は労働者との学習会、とくに国労等の反合理化研究会がないかぎり出席されました。『宣言』や『資本論』の学習より、先生の話しがおもしろく、いろいろ考えさせてくれました。たとえば、「松蔭がポターハン号に乗

船を許され米国に渡っておれば、そして英国に行きマルクスやエンゲルスと会っておれば、日本の社会主義の歴史はどうなっただろう」「徳川が鎖国政策をとらなければ、日本は英に先駆けて資本主義国になったかも」と。

東京・上鷲宮の旧向坂先生宅はたまに訪ねておりました。大原社研がどのように、利用しているのだろうか。岩井さんの墓参りははじめてです。岩井さんと公私をともにした四人と岩井さんを今も敬愛してやまぬ、信州の仲間のお二人です。以下は、その報告です。

(滝野 忠)

岩井章さん没後20年のお墓参り

―「弥次喜多道中」卒業―

岩井章さん、私は直接お話しした記憶はありません。しかし、お顔は鮮明に思い出すことができます。そのお顔とは『ひとすじの道50年』著者の表紙を飾る笑顔の写真です。職場の50代半ばの方に「岩井章さん知ってるかい」と聞くと明確な答えが返ってきません。少し悲しくなりましたが、これも歴史の流れかなと思うひとときでした。

滝野さんから「岩井さんの墓参り行くよ」とのお誘いをうけ、早々に日程調整6月20日、21日の一泊二日厳しいスケジュールでの「岩井章さん没後20年のお墓参り」を執行しました。

小布施(長野県)西永寺へ

「弥次喜多道中」卒業の二人、迷子にならないように東京から(山下俊幸さん、小林久美子さん、松野菊美さん、滝野嘉津子さん)と滝野、蓑輪の6名参加、現地(長野)の道案内は全通出身のお二人、山浦隆芳さん、市川友也さん、町議会議長の関悦子さんが快く受けていただきました。

岩井章さんについては昨年「弥次喜多道中」の報告で記載させていただきましたので参照ください。岩井章さんを簡単に紹介しますと長野県松本出身、高等小学校卒業後、1937年に国鉄に入り機関士へ。1946年に結成された国労に加入、甲府支部青年部長となる。1950年に中央執行委員に就任、1955年総評事務局長、1969年レーニン平和賞受賞。国際労研を立ち上げる。

お墓参りは、東京駅を12時04分に発車します「あさま622号」に乗車、駅弁を買い込み自由席へ。約1時間50分の車中では(元国鉄闘争に連帯する会事務局長)山下さんが積極的に岩井さんとの思いを話されていた。気になったのが「岩井さんはよくメモを取っていた。飲んでいる時も割り箸の紙にメモしていた。」との言葉に「なるほど」と頷く自分がそこにありました。

滝野嘉津子さんが持参した思い出の写真を見ながら、時間をタイムスリップ、岩井さんとの思いに皆さん浸っていました。深い思いがあったのか、小林さん(元国労本部書記)は途中から岩井さんの思い出とともに夢の世界に入って行きました。

感激 山門に岩井さんのきこう

定刻に長野駅に到着、りんご園を営む山浦さん、なんとなくりんごのお顔立ちかな。山浦さんの大先輩で、元鉄道の活動家市川さんのお二人にお迎えを受ける。

一台の車に同乗して最初の訪問地、岩井章さんが眠るお墓へと向かいました。

長野県上高井郡小布施町小布施557（真宗大谷派）西永寺に到着、そこで驚くことがありました。驚きの第一弾は西永寺の山門に「『青龍山』岩井章」と書かれた素晴らしい揮毫（きごう）が目に入ってきます。これは感激の一言です。どうして岩井章なのと思ってしまうですが、話を聞けば、住職が社会科の先生だったことから、このお寺に近くの方々がお集まりになり、岩井章さんの話を聞く会が開かれていたとのことです。その縁あって岩井章さんの揮毫（きごう）が掲げられたとのことでした。

滝野嘉津子さんの親族・関悦子さんと合流。住職の案内で今回の最大の目的である岩井章さんのお墓へ。私は初めてでしたが山下さん、小林さん、松野さんは国鉄闘争解決報告の時にも来られたとか。皆さん、進んで丁寧にお墓の掃除、そしてお花を飾りお墓とご挨拶です。

今の政治、経済、党、労働組合など岩井さんはどう見ているのかお聞きしたいですね。『ひとすじの道50年』の冒頭に「活動家は総評や自分の加盟している組合がどのように進むべきか、迷いつつ道を探っている。迷った時は原則に照らして決めることが常道であることが、古来からいわれていることである。原則を出来るだけ堅持しながら、日常の組織活動を柔軟に対応すること、これが私の結論である。」と書かれている。

小布施町の詳細は「社会通信」1158号を参照ください。北斎、小林一茶、栗を基礎に町民が自らの庭を開放する「オープンガーデン」と紹介されています。町づくりに全力を傾けておられる関悦子さんのご案内で「オープンガーデン」めぐりです。

町おこし「モンブラン」

驚きの第二弾は「モンブラン」です。小布施は「栗の町」、くりと言えば「モンブラン」、喫茶「朱雀」での息抜きタイムです。喫茶店の雰囲気は「恋人同士が一つのモンブランを交互に口に運んであげて言葉なく目と目で愛を語り合う」これですね。1500円のモンブラン、値段にも驚きですが、その大きさ、味わい全てが驚きでした。二組の恋人同士を横目に見ながら、還暦過ぎた熟年男女がペアで一つのモンブランを食べている雰囲気もまわりから見れば超驚きでしたでしょう。

散歩は続きます。白線を引かずにデザインしたお洒落な駐車場（時に若者の広場になる）を見ながら、ここで滝野嘉津子さん、関さんと少しの時間お別れです。小布施北斎館へと移動、小布施は、江戸の浮世絵師、葛飾北斎（1760〜1849）が晩年に逗留し、画業の集大成をはかった特別な場所だそうです。北斎館では祭屋台の天井絵も見ることができました。

そろそろ小布施ともお別れです。小布施の町づくりで活動し、町議会議長に推薦されて議長になったが、「はじめて体験することばかりで、2年間の任務はたいへん」と、嘉津子さんとお話された関さんとはここでお別れ。本日の宿泊地（文人の愛した秘湯山田温泉）松川館に車を走らせます。

風呂そして根曲がり竹

松川館に到着後、「温泉どこ入る」この言葉が命運を分けました。女性軍は「町営の温泉風呂」、男性陣は旅館の風呂へ、女性からの「いい風呂だったね」の言葉に後悔する男性陣でした。山下さんは一番風呂に出陣しましたが「アチチ」と撃沈されました。それでも温泉につかりながら疲れを癒し、日々の激務を忘れる皆さんのお姿がありました。

楽しいひと時が来ました。岩井さんを「おかず」に美味しい夕食です。驚きの第三弾は出された料理の一つ「根曲がり竹の子」です。本当に「うまい」の絶句。誰もが「うまいうまい」の連発。少し味噌をつけて食べるのですが、なんと嘉津子さんだけは何もつけずにお召し上がりでした。(味噌を忘れていたそうです)

山浦さんは全通カメラ集団の写真家、持参された写真は、丸い郵便ポストの写真集です。なかなか丸い郵便ポストを見る機会がなくなる中で、この写真は感激でした。国際労研で働いていました松野さんから岩井さんとの中国交流旅行での思い出、「春闘の時に体調を悪くして社青同の講演会に大事を取って2ないし3回は断った。風邪と思ったが大変な病気だった。岩井さんが亡くなった後も中国交流旅行は続けた。」との話からはじまった思い出話。

山下さんは国鉄闘争の連帯する会事務局長を岩井さんから直接頼まれたこと。小林さんからは佐々木守男さん、酒井一三さん村上さんたちの関わりが話された。山浦さん、市川さんも労働運動について岩井さんの影響を受けていることが話の中でうかがえました。

国際労研設立がなぜ出来たのか、「レーニン平和賞の副賞として960万円のお金がついてきた。当時の免税はノーベル賞だけだったが、時の福田大蔵大臣の努力で無税となる。この基金で何としても階級的労働運動を再建したい、とのおもいから国際労働運動研究協会を作ることとなった」とのことも出されました。

裏話もありましたがそれはそれとして、そこで嘉津子さん、またまたできました。「カメラ壊れた」との大騒ぎ、結果はうまく撮れていました。会話が弾み食事も進みます。翌日の旅館のご主人から「料理を全て食べていただき、おかわりまでしていただいたことありがとうございます」とのお言葉があったそうです。

一茶 壮絶な生涯

二日目はお雨模様の天気です。松川旅館の皆さんと玄関でさよならして次への目的地、一茶ゆかりの里(一茶館)です。小林一茶は47歳の時、この地の俳人であった久保田春耕を訪ねました。春耕から父の離れ家を逗留先として提供された一茶は、以降65歳で亡くなるまで俳諧指導のため、高山村を訪れました。

驚きの第4弾です。一茶の生いたちに誰もが絶句でした。「一茶心の旅」として映像小劇場で人間一茶の紹介を見た我々は、ただただ「辛い人生だっただろう」と思うしかありません。3歳で生母を失い、8歳で継母を迎える。この継母から日々イジメにあう、弟が生まれるとイジメは日増しに強くなる。父は見かねて14歳の一茶を江

戸に奉公に出す。江戸では様々な仕事を転々とする中、25歳で俳人と出会う（小林竹阿）、「いざいなん江戸は涼みもむつかしき」という句を残して文化9年（1812年）11月半ばに、江戸を經ち永住すべき郷里柏原村に向かった。文化10年（1813年）には、弟との間に取り交わした熟談書付の事にある家屋敷分譲の実行と文化4年（1807年）以前の収入と利息を払えという中味で、最後の激しい遺産争いをした。

結婚と子供についても悲惨な人生であった。文化9年（1812年）、50歳で故郷の信州柏原に帰り、その2年後28歳の妻きくを娶り、3男1女をもうけるが何れも幼くして亡くなっていて、特に一番上の子供は生後数週間で亡くなった。きくは痛風がもとで37歳の生涯を閉じた。62歳で2番目の妻（田中雪）を迎えるが半年で離婚する。64歳で結婚した3番目の妻やをとの間に1女・やたをもうける（やたは一茶の死後に産まれ、父親の顔を見ることなく成長し、一茶の血脈を後世に伝えた。1873年に46歳で没）。一茶館に行かれたときは是非小劇場に立ち寄ってください。沈んだ気持ちを抱えて「横手直売所」（飯綱町ふるさと振興公社）に到着、我先にと手にとったのは「根曲がり竹の子」です。籠いっぱい置いてあった竹の子が一瞬に完売です。気持ちもウキウキになり、特産物を買いあさっていた女性陣「安いね」の言葉、「はちみつ」を探していた私でしたが一瞬遅く、滝野さんに買われてしまいました。悔し、残念。

戸隠

お腹がすいてきた皆を乗せた車は昼食を予定している「戸隠そば」まで直行です。神の山、神の森、神の水国立公園戸隠奥社の入口にありますそば屋さん、その前に戸隠竹細工を見学してお土産を買いおそば屋へ。女性陣は「鴨セイロ」を注文、本当に美味しいそば屋でした。予定していた戸隠奥社参拝は雨のために中止、市川さんから車の中で詳細な説明を受けました。

戸隠神社は霊山・戸隠山の麓に、奥社・中社・宝光社・九頭龍社・火之御子社の五社からなる、創建以来二千年余りに及ぶ歴史を刻む神社です。その起こりは遠い神世の昔、「天の岩戸」が飛来し、現在の姿になったといわれる戸隠山を中心に発達し、祭神は、「天の岩戸開きの神事」に功績のあった神々をお祀りしています。

平安時代末は修験道の道場として都にまで知られた霊場でした。神仏混淆のころは戸隠山顕光寺と称し、当時は「戸隠十三谷三千坊」と呼ばれ、比叡山、高野山と共に「三千坊三山」と言われるほどに栄えました。

江戸時代には徳川家康の手厚い保護を受け、一千石の朱印状を賜り、東叡山寛永寺の末寺となり、農業、水の神としての性格が強まってきました。山中は門前町として整備され、奥社参道に現在もその威厳を伝える杉並木も植えられ、広く信仰を集めました。

明治になって戸隠は神仏分離の対象になり、寺は切り離され、宗僧は還俗して神官となり、戸隠神社と名前を変えて現在に至ります。

「くくるみ初恋」

そろそろ、旅の終点です。最後は「お菓子処花岡長野店」でお茶会です。またまた女性陣はお土産買いです。小林久美子さんのお勧めは「くるみ初恋」です。皆さんケーキと飲み物のセットを注文、二日間の思い出を語り合いながらお別れを惜しんでいました。市川さん御馳走様でした。「くるみ初恋」の味は、嘉津子さんの言葉を借りれば「ひと口噛んだその味は、えっ何！ポプコーン？噛みしめ呑み込んだ時の、その味は《絶妙》な濃い味」とのことです。

長野駅に無事に到着、山浦さんから彼の居住・生産地域（長野県飯綱町）の農業者仲間の特製りんごジュースを全員にお土産、本当に美味しいジュースでした。

再会を誓い合いながらお別れです。岩井さんを通して出会った山浦さん、市川さん、関さん、ご苦勞様でした。ありがとうございます。

滝野嘉津子さんは松本へ、滝野忠さん「お土産買うのは妻、持っていくのは私」、とブツブツひとり言。山下さん、松野さん、小林さんお供ありがとうございます。

（蓑輪 泰臣）

おいおい、どこへ行くんだ

思いがけず、お誘いを受けて岩井さんのお墓参りに同行させていただきました。滝野さんご夫妻、松野菊美さんとは岩井事務所が鍛冶橋（東京駅八重洲南口）の国労会館にあった時から、蓑輪さんは国労新幹線支部の青年部時代からのおつきあいです。

滝野さんと初めてお会いした時はまだ独身でした（嘉津子さんのお姿は見え隠れしていました）。山下さんとは「国鉄闘争に連帯する会」の事務局長に就任以来たいへんお世話になりました。

そんな一行で1泊2日のお墓参りの旅が始まりました。長野駅には、これまた滝野さんとは70年代からのお仲間である市川友也さんと山浦隆芳さんが車で迎えて下さり、さっそく小布施の西永寺にあるお墓にむかいました。

西永寺では、嘉津子さんのご親戚の関悦子さんと合流しました。何やら滝野さんが向かうところだんだんと人が集まってきてハメルンの笛吹男のような感じがしてきましたが、関さんは婚家のある小布施で街づくりに深くかかわり、いまは推されて町議会議長になったという元気印の方です。しかも関さんの自宅は西永寺のすぐそばで、これまで嘉津子さんは知らないこととはいええ、何度もお墓の前を素通りしていたのです。岩井さんは墓石の下から「おいおい、どこへ行くんだ」と叫んでいたに違いありません。

みななどお墓を掃除してお花を供え、記念撮影をして目的を遂げた後は北斎館を見学してから、山浦さんに手配していただいた山田温泉・松川館に夕暮れ時に到着しました。

私は松野さんと一緒に共同浴場の大湯に行きました。そこは山間にたつ桃山風の立派な木造建築で、総檜造り、床も壁も板張りの贅沢な源泉かけ流しの気持ちのいい温泉で、すっかり癒されました。

宿での夕食は根曲り竹や山菜の天ぷらなど旬のおいしい料理をいただきながら、岩井さんの思い出を語り合いました。いろいろな岩井さん像が披露され、強い光を放つ

ていた岩井さんの20年の不在を今更ながら感じました。

翌日はあいにくの雨でしたが、ドライブで戸隠まで行っておいしいおそばも堪能しました。何もかもが楽しく、計画頂いた滝野さん、ご案内をいただいた市川さん、山浦さんに感謝を申し上げます。
(小林 久美子)

戦争は二度としない

会長のお墓参りでは大変お世話になりました。

介護の毎日に一服の清涼剤のごとく、大変リラックスできた楽しい旅でした。改めて御礼申し上げます。

国際労研の岩井章会長が急逝されてから早くも20年の歳月が過ぎました。今回、滝野ご夫妻、山下俊幸さん、国労書記局の小林久美子さん、国労新幹線の蓑輪さんからお誘いをいただき、私自身は三回目の墓参となる小布施への旅に同行する機会を得ました。

岩井さんが逝去されてからの20年、生前、岩井さんは、「世界平和と、労働者・市民の権利を守る」を常に運動の根幹に置いて、闘いを指導していました。しかし、現状は岩井さんが目指していたものから大きく乖離しており、さらに、いま日本は会長が一番心配をしていた戦争をする国になろうとしています。

長野にいるとは信じられないほどの気温30度という猛暑のなか、会長の墓前で改めて、「戦争は二度としない」と宣言した日本に戻すための行動を、微力ながら続けて行くことを誓い、会長のご指示で中国との交流担当となったのが、私のライフワークとなったことへの御礼をしました。

今回の長野では、滝野さんのご友人で、元全通活動家である市川さんと山浦さんのお二人が、全行程、私たちのお世話をしてくださいました。おかげで墓参が第一の目的ではありませんでしたが、1泊2日の小旅行を堪能することができました。宿泊は山田温泉の「松川館」。夕食は「根まがり筍」というこの時期に取れる名産の細い筍をはじめ、美味しい料理が数々並び、また、杯を重ねながら、全員が岩井さんとのエピソードを披露し、偲ぶことができました。
(松野 菊美)

岩井章著『ひとすじの道50年』

先月20日と21日、故岩井章さんのお墓詣りのお誘いがありました。岩井さんは長野県諏訪市の出身でもあり、戦前・戦後日本労働運動の偉大な指導者であったことも承知していましたので、同道させて頂くことにしました。岩井さんの身近におられた滝野御夫妻、そして岩井さんと親しかった東京近郊にお住まいの四人にお話をお聞きし、改めて感激いたしました。

滝野嘉津子さんから頂いた『ひとすじの道50年』（国際労研）を何回も読み返しております。いづれ章の記事も目を通すと、岩井さんが困難な状況下にあっても、何をなすかを確かな判断し、ただちに実行力を駆使し乗り切ってきたことを感じました。今も心に余韻が残っています。本当に良かったです。企画して頂いた皆様に感謝し

ます。

戦後、社会党・総評を中心に、『日本国憲法』の定める基本的人権の尊重、民主主義、平和主義（戦争反対）、憲法擁護などを中心に世界に誇れる条項を守ってきました。しかし、その後、朝鮮戦争勃発、中国・台湾の対立問題、社会主義国家の否定等を契機に、アメリカは一転方向を転換し、沖縄基地の永続的な占拠、再軍備化を要請、社会主義思想の否定など日本に求めてきたのです。

自民党はアメリカの要請を意識しつつ、国民の圧倒的多数の意向を無視することが困難と判断し、「憲法改正」「他国への軍事介入」だけは、躊躇してきたのも事実です。しかし、この十年ほどの間に、なし崩しにアメリカの意向を実行してきたのも事実です。

5年前（2014年）2度目の首相に就任した安倍晋三は、形振り構わず、国民の意向を無視し、野党の言動には耳を全く傾けることなく、今日を迎えています。300席の第一党といっても、実際には自民党に投票したのは2割、3割くらいと言われます。したがって、自民党の政策と民意は全く異なっています。

安倍晋三はアメリカの要請にこたえるために、言論や行動・思想の自由を剥奪しつつあります。その地位を利用し、莫大な資金（税金）を懐にいれ、大企業、富裕層の意向のみ意識した政策を受け入れています。その結果、私たちの身の回りは、貧困格差が拡大しています。

日本は経済大国と言われながら、『沖繩』は復帰後45年たつても、事実上アメリカの支配下？にあり、世界最大の軍事基地が存在し、住民は常に犠牲になっています。日本政府はアメリカの言うがまま、日本は「独立国」とは言えないのです。

差しせまる危機に対し、愚痴ばかりでなく、岩井さんの教えを国民一人ひとりが真剣に考えることが、問われています。どんな困難があつても。岩井さんの教えを守ることが必定です。

岩井さんは戦後総評のかなめとして日本の労働運動を牽引するとともに、世界の平和運動の先頭に立って活躍したことは今も明白です。もし、岩井総評事務局長の決断とリードがなかったなら、日本のベトナム戦争反対の運動は、あれほど大きく盛り上がることは困難だったでしょう。

日本のベトナム反対の活動は、世界に広まるとともに、アメリカ国内における反戦運動の高揚や・ベトナム帰還傷病兵の意思がベトナムからの撤退に大きな役割を果たしたといわれます。

アメリカはベトナム及び周辺国の共産化？を訪ぐことを理由に、太平洋戦争を上回る爆弾（北爆）を無差別に投下し、子どもや女性を含め殺戮しました。さらに各地に枯れ葉剤をバラまき、ベトナム人民を死に追いやるとともに、身体障害を与えたことは、日本でも知られています。

こうしたアメリカの横暴に対し、世界中から非難されたのは当然であり、1970年、超軍事大国アメリカが、サイゴン（当時南ベトナムの首都）が陥落し無残な敗北を喫し、ベトナムから撤退したのは当然だったのです。

（長野 市川 友也）

小さな火を全国に

「岩井章さんが亡くなって二十年になる」と滝野さんからの電話。

「近い仲間では参りに行くので同行いかが」とも。「喜んで」と私。

長野県に住んでいながら岩井章さんのお墓はどこにあるのか？

滝野ご夫妻のきめ細かなアドバイスの中、東京からの六人の仲間と長野の二人の、岩井章さんを偲ぶ情報交換会、和やかな中にも学習会を思い出す熱気のある出会いでした。

私は現在、ほぼ「ひとり農業」。時々「野焼き」をやりますが、片隅で火をつけてもなかなか勢い良く燃え広がりませんが、何か所かに火をつけるとどんどん燃え広がります。

長野で小さな火をつけ続けます。全国のあちこちで火をつけて大きな燃え広がりと、決意した出会いでした。
(長野 山浦隆芳)

『資本論』 猛勉強の中で

国鉄闘争が終結したとき、中里さん、中岡さんらと墓前に報告に行つて以来、2回目。この度は、岩井さんの墓前に、私の現在の心境を報告してきました。わが師滝野さんのご配慮で、参加させていただいたことを感謝しています。長野のお二人にも大変お世話になり、感謝に堪えません。

長野にはこれまで数十回行つていますが、何時もとんぼ返りで、善光寺すら行ったことがなく、観光とは無縁でしたが、大変楽しい旅でした。

私の人生観も、もつと、成長できると思います。私は、今日も勉強に明け暮れてお礼が遅れたことを申し訳なく思っています。帰って来てから、改めて、岩井さんの著書や論文を夢中になって読み返しました。

事前の準備として、『国際労働運動』1997年5月号、故岩井章会長追悼特集号と岩井章著『ひとすじの道50年』の2冊を書棚から取り出し読みました。

『ひとすじの道50年』は、滝野さんから『旬刊 社会通信』刊行500号を記念して、岩井氏のサイン入りで、私に贈呈して頂いたものです。この2冊で、岩井さんの生き方、お人柄の素晴らしさに、改めて接しました。同時に、この本をお送りくださいました滝野さんのご配慮に感謝しています。また、岩井さんの死去当時、社会通信に掲載された、滝野さんの追悼文、稲村守さん、松枝佳宏さんの想いなど、バックナンバーから検索し、印字して読み直しました。当時の、私を含め仲間たちの突然の訃報にショックと、乗りこえて頑張り続けようとする決意が伝わってきました。

岩井さんの本を改めて読み返してみても、私の師である滝野さんの現在の社会主義運動、労働運動の分析、見方、主張の正しさを心から確信できます。私も、滝野さんの助言で始まった『資本論』の勉強は、関連する本を含めて、相変わらず続けています。最近、小林晃著『現代と「資本論」』を読み返しています。

やつと最近、社会主義者になれた、と自覚できるようになりました。今後もしも引き続

き滝野さんのご指導を頂きながら、弟子として恥じないように、学び、闘い、労働者階級の解放に微力ながら、小さな努力を続けていきます。朝夕の愛犬「テツ」との散歩、家内の介護を続けながら・・・

岩井さんの論文を読んで、現在こそ階級対立、階級闘争の実態を明確に意識し、諸問題に対応する思想性が問われていると思います。

向坂先生、岩井章さん、灰原茂雄さんらの理論や実践を本心から学ぶ姿勢が問われている、と思います。

「チューンガムごとき」理論は、労働運動の階級的強化、労働者階級の解放(社会主義)運動とは全く無縁な屁理屈にしか捉えることはできません。この度は大変お世話になり、ありがとうございます。

一緒に行った、蓑輪君、小林さん、松野さんも本当に人柄がよく、何の遠慮もなくお付き合いできたことを嬉しく思っています。(山下 俊幸)

国 労 闘 争 団 激 励 ツ ア ー

岩井章さんが眠る小布施「西永寺」が、こんなにも町なかで、私の父の実家の末娘の「嫁ぎ先」に近いことに驚きました。お墓の裏側には『おぶせミュージアム 中島千波館』、前の小道を7分ほど歩くと『北斎館』があり、人口一万人超、観光客は年間百二〇万人の小布施のど真ん中。私は岩井さんのお墓の脇道を何度も素通りしていました。

岩井さんが亡くなった1997年頃から私は、老親に振りまわされながら、介護と街のバリアフリーに埋没、国労闘争団のことも岩井さんも遠い存在になっていました。ふりかえれば、一九九一年春から九二年にかけて、岩井章さんを団長に、山下俊幸さんが事務局長で取り組まれた「国労闘争団激励ツアー」(3泊4日の旅)に、岩井さんの近くの熱海の方々や、第三次広域採用で来られた方々などと一緒に参加し、北海道と九州のほとんどの闘争団を訪ねました。千葉県五井市の「国労生活事業センター」にも、岩井さんの近くに住む武井さんと一緒に出かけたりもしました。

いつも山下さんが現地の闘争団の方々と話し合い、綿密な計画をたてて私たちを案内してくださって、その際、岩井章さんはいつも「団の一人ひとりから直接率直な話を聴きたい。講演など入れてくれるな」と強く要望されたそうです。当日、現地で岩井さんは、闘争団の方々の発言を熱心にメモをとりながら耳を傾け語りあっていました。

発言が終わると岩井さんは、「今言ったことの意味が良くわからない。もう少し詳しく話してくれないか」、「闘いが曖昧と言ったが、具体的にどうか」等、実に細かく謙虚に語りかけ、「この闘争は誰もがはじめて経験することで、指導するというのは無理だ。あえて言う、一人ひとりの思いつきや知恵をしつかりと研究し、一つのものにまとめあげ全体のものにしていく。これが指導と言えば指導だ」と言われたことを思い出します。岩井さんの闘う仲間としての限らない愛情と信頼が感じられました。

岩井さんが亡くなって20年。この間、「構造改革」「規制緩和」が進行し、「福祉も聖域ではない」、「自助努力」等、大手をふって言われ出し、私がつり組んで来た「介護」や「駅と街のバリアフリー」の当事者運動も難しくなっています。法制定当初5

年位は、当事者の声を引き出され、市政や区政に反映され喜んじりましたが、「改正」のたび当事者の声が無視されたり、排除や抹殺も容赦ない状況にもなっています。

20年前には3%であった消費税増税が今や8%。その増収分は社会保障の充実・安定化資金へと称しつつ、実は法人税減税をおこない、10%への消費税率引き上げ延期を口実に、介護保険や生活保護など社会保障の削減を加速させ、今、利用当事者と関係者、介護や福祉の現場を担う労働者らの矛盾は深刻化する一方で、悲惨な状況です。

障害者や高齢者等誰もが使いやすい安全な駅をめざし、20億円の予算で始まった常磐線JR神立駅建て替え事業はオリンピックピック招致で資材と人件費が高騰し36億円にも膨れ上がっていますが、JR負担分は旧駅舎取り壊し費用1億3千万円のみ、残りは国と自治体の補助金です。建物は立派でなくとも良いのですが、その論理は通らない。

完成まで、工事中の安全性や経路の問題なども多々、合わせて60数億円の予算で始まった駅前整備も、バスやタクシー等の乗り降りの安全性が守れるか、車いすや白杖、盲導犬利用の当事者は切々と訴えます。しかし、その声は届かず、心が折れそうです。

夜、乾杯しながら盛り上がった「岩井さんを語る交流会」では、今後の生きる糧と元気をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。山下さんや養輪さんに引つ張られて、岩井章著『ひとすじの道50年』を読み終えましたが、どの頁をめくっても岩井さんが20年後の今をも見据えて論述されていることに驚き、刺激されました。

岩井さんに学び、謙虚に優しく当事者の思いを大切に一人ひとりと粘り強く語りあう、信頼感を深めながら運動の輪をひろげていく、そのための意識改革とその構えが大事等、「交流会」の盛り上がりで示唆され考えさせられた旅でした。(滝野 嘉津子)

競争社会でなく協力社会

―「反核平和・9条改悪許さない」新得集会―

北海道・新得(十勝地域)の読者である佐野周二氏が、同地で7月6日おこなった「反核平和・9条改悪許さない」新得集会のもようを報告して下さった。労働団体、市民運動団体、政党、政治家、文化人が参加。熱気ある集会であったことを伝える。

ここでは、新得のもう一つの特徴である、共働学舎新得農場代表である宮嶋望さんの報告を中心にお伝えしたい。(編集部)

宮嶋望さんは『共鳴力と平和社会』というテーマで次のように講演した。

「自然と一緒になっつてつくりよう、森も牛も畑も皆シンホニーを奏するときハーモニ―は一つの音ではできない。二つ、三つ以上を重ね合わせてハーモニ―をつくって環境に伝える歌と音を出していく。チーズづくりから作物づくり、全ての微生物も人間も、お互いに協力して生きていく。それが「競争社会でなく協力社会を」が父・共働学舎の創立者の宮嶋眞一郎の構想である。自然と食べ物、命という段階で皆が協力したからチーズは美味しくなった。チーズは味に敏感、協力して生きていこう。真に平和な社会を創ろう、命を奪う戦争は絶対止めて頂きたい。」と。

5月26日釧路地裁に提訴した『安保法制違憲「道東」訴訟』弁護団の斉藤道俊事

務局長（とめよう改憲！十勝連絡会共同代表）は、「宮嶋さんには安保法制違憲訴訟の原告になって頂いた。国会、内閣、行政、いまひどい状況、まともな議論もしない。安保法制についてほとんどの憲法学者が違憲と言っているのにデタラメな法律を通してしまう、集団的自衛権の行使は憲法違反と歴代内閣が言っている。政治状況が憲法無視の状況で何とかくい止めたい。会場のみなさんにも訴訟に参加してもらえればありがたい」と報告した。

◆講演「アンケート」も『共鳴力と平和社会』を中心に―

・外国での話が印象的でした。いろんな意味での多様性を考え、幅広い視野で判断していかねばいけないと思った。

・共働学舎のチーズの大ファンです。理念・（実現力）行動力を維持されているエネルギーの秘訣はたくさんさんの生命との交流あってこそ：なんですね。『共鳴力』（宮嶋望著・地湧社発行）楽しみに読ませていただきます。これからもサイフのひもをゆるめられる範囲でチーズの消費者を続けます。

・共鳴力、個人を尊重することが戦争反対の闘いになる。私は身障者であるが戦争があれば個人の考えはまっさつされる。戦争反対を高くかかげることが大事である。

安保法制反対、憲法改正反対！

・人には個々の特性があり、同じではない。できる事を行うだけでも集団の中で健全に平等に生きていく事ができるんだと改めて思いました。

人には得意な事と不得意の事があると思いますが、得意な事を伸ばす事で社会の中で必要な人材となり社会に貢献でき生きがいになり、互いに人と人が共鳴し良い環境が生まれるのかなと思います。このような考え方は、さまざまな職場で生かされると非常に良いチーム力が生まれるのかもしれないと思いました。

・「共鳴力」の意味と想いを確認できました。相手をおもいやること、優しさ、そういう人に近づきたいものです。平和は作っていくこと。さらに「積極的に」（平和を作る）ということ学びました。

大飯原発うごかすな！

― 10・15（日）関電包囲全国集会 ―

関西電力（関電）は、5月から6月にかけて、脱原発、反原発の圧倒的な民意を踏みにじって、危険極まりないプルサーマル炉・高浜原発4・3号機の再稼働を強行しました。高浜原発運転停止仮処分大阪高裁抗告審での不当決定（3月28日）を受けました。

大阪高裁は、抗告審で、政府と関電の主張のみを承認し、原子力規制委員長までもが「安全を保証するものではない」と言う「新規制基準」を「安全基準」と言い、この「安全基準」に適合しているとして、高浜原発3・4号機の運転差止め仮処分を取り消したのです。「新安全神話」を作ろうとするものです。

また、原発に「絶対的安全性」を求めるべきではないとしています。人の命と尊厳をないがしろにするものです。

さらに、住民が「新規制基準」に不備があるとするのであれば、それを住民側が立証すべきだとして、「立証能力が無ければ泣き寝入りしろ」と言わんばかりの、裁判制度を根底から揺るがしかねない要求をしています。

このような極めて理不尽な決定を根拠にした高浜原発再稼働に、断固とした抗議と反撃をしなければなりません。一方、関電や政府は、今秋以降の大飯原発3・4号機の再稼働（安全対策工事の遅れにより12月以降にずれ込むとの報道もあり）のみならず、40年越えの老朽原発高浜原発1・2号機、美浜3号機の再稼働もたくらみ、「原発銀座・若狭」の復活を狙っています。

イタリア、ドイツ、リトアニア、ベトナム、台湾が脱原発に向かい、スイスが国民投票で原発新設を禁止し、韓国が新規の原発建設計画を白紙撤回し、最大の原発依存国・フランスでさえ、17基の35年超え老朽原発の廃炉を発表し、アメリカでも原発からの撤退が相次いでいるという、世界の潮流に逆らい、圧倒的多数の国民の脱原発・反原発の願いを蹂躪するものです。

政府と関電は、若狭の原発を次々に再稼働させることによって、日本中の原発再稼働に弾みをつけ、原発依存時代の再来を狙っています。

したがって、「画策されている大飯原発再稼働を阻止する闘いは、「原発、是か非か」を問う天王山になります。

原発電気消費地と原発立地での原発NO!の闘いを圧倒的に高揚させ、「脱原発・反原発の民意に逆らったらとんでもないことになる」ことを政府と電力会社に思い知らせ、若狭の原発の全廃を闘いとりましょう!

10月15日(日) 関西電力本店前を埋めつくし、大飯原発うごかすな! の声をあげましょう。

- ◆ 名 称 10月15日 大飯原発うごかすな! 関電包囲全国集会
- ◆ と き 10月15日(日) 13時〜14時45分
- ◆ と ころ 関西電力本店前(大阪市北区)
集会後、御堂筋デモ(関電前集会が終わり次第、徒歩で公園に移動します)
- ◆ 集 合 15時15分〜15時30分
- ◆ と ころ うつぼ公園(大阪市西区)
- ◆ 主 催 うつぼ公園からデモ出発 15時30分(デモ終了(難波) 17時頃)
大飯原発うごかすな! 実行委員会
- ◆ 呼びかけ 原子力発電に反対する福井県民会議、若狭の原発を考える会
- ◆ 連絡先 宮下正一(原子力発電に反対する福井県民会議)
電話 0776-25-7784 Fax 0776-27-5773 E-mail kenheiw@quartz.ocn.ne.jp

◆賛同募集中(個人、団体)

右集会に賛同していただける団体・個人の方は左記までご連絡ください。

賛同は、公表の可否も明記願います。

賛同受付 ↓ 木原壮林(若狭の原発を考える会)

電話 090-1965-7102 Fax 075-501-7102 E-mail kiharas-chem@zeus.conet.ne.jp

※詳しくはインターネットで、「高浜原発うごかすな! 実行委員会」で検索!(稲村守)